



ひろがる

SMF
Saitama Muse Forum

Press

2013 1.24

号外

SMF

外と礼儀正しいらしく、さいたま市の浦和区、北浦和西口銀座商店街に出没しているらしい。

らしい、らしい、とその実態がいまの吾輩が、2012年中秋の某日、突如出現したのである。目的は「きたうらワンと探そうまのステキ」というワークショップを行うためらしい。ワークショップとやらは一体何を売っておるのか皆目見当もつかぬが、絵を描くことを得



▲月見屋のおばちゃん

吾輩は、きたうらワンである

吾輩は犬である。名前は、「きたうらワン」。特技は絵を描くことらしいが、まだ見たものはおらぬ。意



意とする吾輩にとって、まのステキを探することは朝飯前である。何々、ワークショップとは自ら体験して学ぶ新しいアートの方法であるとな？今回は、まのステキをデジタルのカメラで写真におさめてくるのが目的であるとか？なるほど、よくわからんが面白そうではないか。集まってきたのは近所に住む子どもである。彼奴らは説明もそこそこに、吾輩を小脇に抱え、片手にデジタルのカメラを握り、まちへ出て行きおった。



観ることが出来るとは、恐れ入った。むむむ！皆なかなか良い着眼点を持っておる。なおかつ独創的だ。これはでは吾輩もうかうかしておれぬ。早速デジタルカメラなるものを入手せねば。おっと、その前にもっとモノを見極める眼力を身に付けるべきか。いやはや、誠に悩ましいところである。

とりあえず、今日のところは、先のワークショップの報告がまとまったことで好しようか。はてさて又皆と遊びたくて来た。それではいつの日か必ずや逢おうぞ、さらばじゃ！

(S・I)

探していると告げてゆく、大した度胸である。まの者も意外と親切に承えてくれるではないか。何々、吾輩のことを知っておるのだと？いつの間にか有名になったものだ。何々？可愛いとおっしゃる!?

照れるではないか。せっかくですから一緒に写真に写りませんか？パシャリ。なんだか楽しくなって来たぞ、もつともつとまのステキを探さねば。

おーっ！向こうから奇妙な面構えの二人組が近づいてくるぞ。子どもらよ危ないぞ、早く逃げねば！おやおや？慌てる吾輩を横目に子ど

真を撮ってしまった。パシャリ。うーん、ますます楽しくなってきた。

その後も吾輩は、みかんの山に埋められたり、いろんな動物らと記念写真を撮ったり、そして服屋の衣文かけになったりと八面六臂の大活躍であつたわ。はっはっはー。

最後は、皆が撮ってきた写真の鑑賞会である。今撮影したモノがもう

以上、吾輩「きたうらワン」による2012年10月28日のワークショップレポートでした。





「きたうらワン」不思議美術家と2度目の出動！

きたうらワンとアートパレード

去る11月18日、S.M.Fの常連アーティスト、松本秋則さんが北浦和にやってきました。子どもカメラマンの撮影会でデビューした「きたうらワン」、お次は種々多彩な《竹のサウンドオブジェ》を生み出す不思議美術家とのコラボレートです。竹筒と段ボールを組み合わせた笛を作り、演奏しながらまちをパレードするワークショップに、見学者を含む7チーム計16名の親子が参加しました。講師の松本さんの指導のもと、抜群のチームワークで楽器を組み立て思い思いに装飾。「きたうらワン」のぬいぐるみを抱っこしたり楽器に括り付けたりして、美術館から商店街へ、賑やかに行進していきました。

段ボール笛の制作ワークショップは過去にも一度実施しています（※詳しくは2010年S.M.F記録集をご覧ください）。が、今回は館外でのパフォーマンスを盛り込んでリニューアル。商店街ではまちの人のあたたかな笑顔に迎えられる、大通りを渡って公園に入ればそこに憩う人々の注目を集め、最後は美術館のエントランスで大合奏。みんなの「ヤッター!!」の気持ちでファンファールとなって、秋の澄んだ青空に高く鳴り響いたのでした。参加者一同、創作の成果を作品の出来栄えだけでなく、他者との交流から実感できたことは、前回からの大きなステップアップではないでしょうか。加えて、S.M.Fと北浦和西口銀座商店街との連携アートプログラムは今年で4年目。第1回目から参加を続けている松本さんもお店の方とすっかり顔馴染みになり、酒屋さんのご主人からワークショップ参加者に向けて、松本さんや「きたうらワン」に関するクイズを出題する場面もありました。昨年の《回遊美術館Ⅱ》をもとに誕生した「きたうらワン」ですが、これを通じて大学、商店街、美術館の3者の縁も深まり、子どもたちにも親しまれながら徐々に認知が広がりとつあるところ。まちのコミュニケーションツールとして、これからは多くの方々とともに成長させていきたいと思えます。

(A・O)



▲松本秋則さん(左端)と参加の親子

きたうらワンとアートパレード

スタッフAの感想

今回、愉快的な段ボール笛の作り方を教えてくださった松本秋則さんは、ワークショップの冒頭で、たくさんさんのオリジナルの竹楽器を紹介してくださいました。手に持ったり足を使ったり、水を使ったり...どの楽器も奇想天外で、予想外の音を奏でます。音に合わせて松本さんのカラダが動き、面白いパフォーマンスになっていきました。参加者も楽器に触れさせてもらい音の样々に鳴りました。



素材に触れ、音を発見し、創造し戯れる...そうして作られた楽器を鳴らしていると、私たちのカラダの中に眠っている感性や原始のリズムが呼び起こされるようです。



▲横内酒店の横内寛さん

段ボール笛は、段ボールを押しと中の竹筒から空気がでて音がします。鳴らし方によって音は、グワッグワッグワッグワッグと色々変化します。参加者が作品に施した装飾は、音をイメージした色やキャラクター、カエルやブタなど様々で、素敵なものが出ました。子どもも大人も一緒になって楽しく演奏していました。そんな様子をみていたスタッフAも、ワークショップ参加者に紛れて段ボール笛づくりに参加！商店街にパレードするというところで、昨年に生まれた商店街のキャラクター「きたうらワン」のぬいぐるみをメインに装飾して、パレードに参加しました。

その後、商店街の横内酒店さんへ行き、きたうらワン段ボール笛をしばらく展示していただくことになりました。お店に立ち寄った時にはぜひ、鳴らしてみてくださいね！

(E・A)